

国交労組

より多くのなかまを職場で迎えよう

2022年9月5日号
第238号
毎月5日発行

発行所

東京都千代田区霞ヶ関2の1の3 国土交通労働組合
電話(03)3580-4244 F A X (03)3593-0359
URL : http://kokkoroso.or.jp/
発行者：山崎 正人
1部20円(組合員の購読料は組合費に含む)



2022年9月5日 国交労組 第238号(通巻1394号) 昭和37年12月3日 第三種郵便物認可

平均年齢 33.5歳

コロナでも

変わる執行部変わらぬ組合の重要性

連載 支部インタビュー

～あなたの支部のこと聞かせてください～

第4回 四国港湾空港支部

「コロナ禍だからこそ、身近で頼れる労働組合」

四国港湾空港支部は、2001年の省庁再編で四国地方整備局が発足したことを機に結成した港湾空港職場で働くなかまがつくっています。

現在、組合員は四国4県に6つの分会があり、常勤職員と非常勤職員をあわせて128人と、決して大きな組織ではありませんが、地道に日常生活にとりくみながら、プロック国公や県国公にも

「集合し、誰もが安心して働ける職場環境づくり」をめざしています。

また、支部と分会の連携強化を目的に、各分会から1人は支部役員を選出することとしています

が、ここ数年、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、定期的な執行委員会の開催が難しくなってきたことが悩みの種となっています。

このようななか、事務局のWeb環境整備や機関紙の充実化をはかり、コロナ禍での「組合活動のあり方」を模索しているところですよ。

いま、執行部の平均年齢は33・5歳と若返り、時代の流れとともに運動のスタイルや要求内容も少しずつ変化しています。

しかし、労働組合の重要性は何ら変わるものではありません。コロナ禍だからこそ、職場に労働組合があることが重要であり、これまで以上に「身近で頼れる労働組合」が求められます。

引き続き、四国港湾空港支部は労働組合をつうじて、「なかま同士のつながり」を強め、「風とおしの良い職場」となるようがんばっていきたく思います。みなさん、ともにがんばりましょう。



安全な港湾施設をつくるには、安心な職場が必要

支部役員紹介

普段から元気があって笑顔が絶えない吉松さんは、職場のみんなを和ませてくれています。無理を承知で支部書記次長になって欲しいとお願いしたところ、快く引き受けていただき、日々奮闘していただいております。

吉松書記次長は、2019年に四国青年プロジェクトとして開催した、レクリエーション企画、「ラフティング&BBQ」において、リーダー的役割として、企画・準備等に尽力いただきました。その時の打ち合わせでは、「みんなを空に飛ばそうぜ！（パラグライダー）」といったスリリングな案を提案するなど、大胆な一面もあります。（この案は、青年担当のおじさんが必至で阻止しました（笑））

最終的には、ラフティングで参加者を川に突き落とす企画となりましたが、みんな大満足で、四国の青年層の結束がよりいっそう強まりました。



職場の困難も、力強く乗り越えよう！



四国港湾空港支部
書記次長
よしまつ 吉松 美南

昨今、コロナ禍で思うような活動ができていないところではありますが、吉松書記次長を中心に、青年が明るく、楽しく、元気よく、仕事やプライベートが充実できるよう、日々の奮闘に期待しております。



ベテランが支えながら、青年がイベントを企画しています

今月の「国交労組」

- 若手役員大活躍！四国港湾空港支部
連載 支部インタビュー … 1
- 知ってる？あの組織、この組織
産別共闘のとりくみ他 … 2
- 給与改定だけじゃない 狙われる制度変更は
22人事院勧告の解説 … 3
- 4月の復刊から破竹の毎月発行
機関紙交流「わたらせ」他 … 4
- 灯る戦の火種を 消すことだろう
原水爆禁止世界大会他 … 5
- もれなくクオカードプレゼントも
ワンコイン共済他 … 6